

カトリック 仙台教区報

2012年11月4日 No.208
発行
カトリック仙台司教区
〒980-0014
仙台市青葉区本町 1-2-12
Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任 広報委員会
URL http://sendai.catholic.jp/

《信仰年》 2012.10.11 ~ 2013.11.24



信仰年 2012
2013

四角形で示される区画の中で、教会を象徴する船が波の上を進む。船のメインマストの十字架とともに、3つの帆が、キリストを表す3文字(IHS)をかたどる。帆の背景の太陽は、IHSの3文字とともに聖体を示す。

わたしたちの信仰と生活のあり方を大きく問い直す機会にもなりました。全国各地の多くの教会や信者の方々が、信者の少ない被災地で復興支援に関わっています。

聖母マリアの取り次ぎを願いながら、主イエス・キリストがわたしたちの歩みを守り導いてくださいますよう祈ります。

2012年10月11日
日本カトリック司教団

信仰にあらたな光を！

2011年10月16日(日)、教皇ベネディクト16世は、サンピエトロ大聖堂で司式したミサの説教で、特別年の「信仰年」の開催を発表した。「信仰年」は、第18回カン公会議開幕50周年、また「カトリック教会のカテキズム」発布20周年の2012年10月11日に始まり、2013年11月24日の王であるキリストの祭日で終わる。教皇は自発教令『信仰の門』、「信仰年」開催の告示を發布し、「信仰年」開催の理由・目的・方針を説明した。これを受けて、日本の司教団は全信徒に向けメッセージを発表した。

日本カトリック司教団「信仰年」メッセージ 「信仰の恵みを見つめ真の旅に招かれて」

キリストにおける

兄弟姉妹の皆さん

教皇ベネディクト十六世の自発教令『信仰の門』の呼びかけに応じて、わたしたちは全世界のカトリック教会とともに、今日から「信仰年」の歩みを始めます。

現代の日本の社会には、少子高齢化、経済の低迷、家族関係や人間関係の問題、いじめ、自死、原発問題など、さまざまな困難があり、多くの人が悩みや苦しみを抱えて生きています。ここには、生きる意味と救いを求める声なき叫

びが満ちているとも言えます。その中で、信仰という尊いたまもの

を受け、わたしたちは、「主のもとにとどまり、主とともに生きようとする決断」、『信仰の門』10のうちに、自らの言葉と行いで信仰をあかすように招かれています。わたしたち自身がどのように信仰の喜びを生きているか、信仰から来る希望と愛をいただいているかを問い直しましょう。昨年2011

年3月11日の東日本大震災と福島第1原発事故は、多くの犠牲者・被災者・避難者を生み出しました。それはまた、わたしたちの信仰と生活のあり方を大きく問い直す機会にもなりました。全国各地の多くの教会や信者の方々が、信者の少ない被災地で復興支援に関わっています。

少しでも支援をしたいという思いをもって現地に赴きますが、かつて被災された方々から「寄り添う大切さ」「一緒に生きる喜び」「未来への希望」を教えられる体験も数多くありました。このような体験を通じて、神がわたしたちの信仰に新たな光を与えてくださったことを強く感じます。

わたしたちはこの「信仰年」を通して、もう一度信仰の恵みを見つめ真の旅に招かれています。まず、わたしたちは祈り、神のことば(聖書)、感謝の祭儀を通して自分の信仰を深めるよう励みましよう。この信仰の道はたった一人です。歩む道ではありません。信徒も修道者も司祭も、そしてわたしたち司教団も、同じ信仰の道を歩む者です。互いに支え合い、励まし合いながら、謙虚さと勇気をもって新たに「信仰の門」に入っていきますように。

「道であり真理であり命である」(ヨハネ14:6)主イエスは「信仰の創始者・完成者」(ヘブライ12:2)であり、わたしたちの信仰の最高の導き手です。主イエスに従い、希望をもって信仰の旅路を共に歩んでまいりましょう。

生命の泉

10月11日から信仰年が始まった。年間の行事であることと週間であること具体的な活動はおおよそ見当はつくが、この信仰年といふことになれば具体的な何をすればよいのかと考へてしまふ。司教団メッセージ

には、少子高齢化、経済の低迷、家族関係や人間関係の問題、いじめ、自死、原発問題などの真つ口中に生きていくこと、そんな中にあっても私たちが信仰に生きるものとして、自らの言葉と行いで信仰をあかすように招かれています」と励まします。課題山積の中で、「信仰の喜びを生きて」といわれても、今年のノーベル平和賞は欧州連合(EU)に贈られることに決まった。60年以上にわたって欧州における平和と和解、民主主義と人権の向上に貢献した」と評価しているが、過去に大きな独逸戦争を繰り返した大國が協力して加盟27か国を引つ張っている姿に感銘を受ける。フランスのある著名な国際政治学者は、欧州から見れば日本も中国も同じアジアの二つの國でしかない。協力することで繁栄がもたらされることを知るべきだ、という。EU各國に自國の立場について理解してもらおう。国際司法裁判所では、いともらおつたと言つても、利害のない立場の人に理解してもらつたことなど、どちらでも良い事だ。哲学者森有止は、「平和問題を平和そのものから議論しても何も得られない」といふ。私たち一人ひとりが自分の生活の現場で何をすれば関係が良くなるかを具体的に考えることが大切だと指摘する。「平和を実現する人は幸いだ」と言われるみことばは超人的な何かをせよといふ手の届かないモットーではない。平和の大切さを声高に叫ぶ人を警戒しなければならぬ。なぜなら、平和は自國の損なわれた権利もさることながら相手のことを注意深く読み取る必要だからだ。それは自虐的な國家観などではない。(守)

明日放射能で死ぬより、今日立ち上がる 第8回シンポジウムと平和巡礼 in 仙台

司会者の開会宣言の後



「宗教者九条の和」主催による「輝かせたい憲法第九条」と題する「第8回シンポジウムと平和巡礼 in 仙台」が、9月29日、元寺小路教会で開催された。東京、大阪など各地からの多宗教教派の方が150人以上参加し、12時半から熱気のもつ真剣な集会在繰り広げられた。

故で亡くなられた方々の方々のために、1分間の黙祷が捧

げられた。その後、平賀徹夫仙台教区司教が歓迎の言葉、続いて奥山仙台市長のメッセージが代読された。講演は「原発と憲法九条 広島原爆10万倍の放射能とどう向き合うか」ということについて、一橋大学イノベーション研究センター特任教授 所源亮（ところけんすけ）氏がわかりやすく、自分が実践していることも含めて話された。まず、最低知っておかなければならない原発のことを話すと前置きされた上で、「原発は原爆と同じ危険性があり、原爆より危険。原発がなければ、日本の電気

量は不足すると言われるが、そんなことはない。かえって、原発によって、高い電気代を払っている。原発が発するゴミを安全に処理する方法はない。福島第一原発から多量の放射性物質が放出され、広い地域が汚染された。日本に原発建設の立地条件に合致する場所はどこにもない」。



司教日程 11月・12月	
11・3	川渡カトリック保育園
4・5	部落差別人権委 全国会議
6	司祭評・定例会 司祭団・役員研修会
9	10 東北地区カトリック校
11	いわき教会
13	16 日韓司教交流会
17	スベルマン病院追悼ミサ
18	久慈教会トマ師追悼ミサ
20	使徒職協力者の会
24	横浜教区宣教150年
27	人権を考える委員会
28	淳心会創立150年
30	全ベース会議
12・1	仙台教区サポーター会議
3	14 仙台教区司祭の集い
7	部落差別人権委員会
8	9 松木町教会・堅信式
11	司祭評役員会・司祭団役員養成講座
15	信託養成講座
16	西仙台教会
19	社会司教委員会
22	ドミニコ学院小学校
23	郡山教会
25	降誕祭

なぜ信じ、誰を信じ、何を信じているのか

司教 平賀徹夫



「信仰年」が始まりました。「『信仰年』は、世の唯一の救い主である主に対する誠実で新たな回心への招きです（自発教令『信仰の門』（6）と教皇様は全世界に向けて発表し、「わたしたちは、教会が忠実に伝えてきた神のこことばと、弟子たちを生かすために与えられたいのちのパンの味を再発見しなければなりません」と勧めています（同3）。新たな回心のためには、神の言葉である聖書をあらためて深く味わうこと、そして、私たちを生かすために与えられたいのちのパン（聖体）の意味をあらためて深く味わうことが土台となる、ということでしょう。神のこことばに養われいのちのパンに力づけられる最も良い場として私たちには聖体祭儀（ミサ）があります。ミサへの参加はただの義務ではありません。それは私たちの命の源泉への回帰であり、それなくしては信仰もいのちもやせ細ってしまうのです。

教皇様は同時に、「過去においては、信仰の内容と、信仰から靈感を受けた価値観に訴えることも広く受け入れられていました。しかし、現代においては...、同じことをいうことはできません。信仰の深刻な危機が多くの人々に影響を及ぼしているからです（同2）」と警鐘を鳴らしています。“信仰の深刻な危機”という警鐘は、欧米のいわゆるキリスト教国に向けられているだけでなく、キリスト信者がまったくの少数派である日本の、あるいは仙台教区の、私たち教会にも当てはまるのではないのでしょうか。教会の中で、「信仰によって生きる」意識が弱まり、信仰への関心も薄れているなどという状況はないと言えるでしょうか。

信仰年にあたって日本の司教団は、「キリスト者は、祈りや日々の生活をとおして信仰体験を深めるだけでなく、なぜ信じ、誰を信じ、何を信じているのかを常により深く悟り、どう生きているのかを絶えず振り返る必要があります」と呼びかけています。この「なぜ、誰を、何を」は一人で思い巡らすよりも、家族が集まったときやグループでの会合・勉強会などで意見や思いを分かち合うなら、その実りははるかに豊かなものになるでしょう。

所氏は、福島原発事故以来住まいを岐阜に移して生活しているとのこと。しかし、その岐阜も、福井県・大飯原発が事故を起こせば、23分で危険になる。そのため、常に「23分ふるさとがなくなる」と書いたTシャツを身に付けており、この日も、途中からTシャツ姿で話される姿が、何よりも原発の恐ろしさを訴えるものだった。その姿で、毎週、駅前で「明日放射能で死ぬより、

今日立ち上がる」と人々に訴えられていた。終了後、参加者たちは、市内をデモ行進して、憲法9条の精神をアピールした。

【司祭異動】

福島県 10月1日付

氏家 和仁 司祭館付(むき教協協力)

宮城県 11月1日付

ポルトー 仙台中央地区協力

(新任)

白河教会100周年

カトリック白河教会(主任・田中丈夫神父)は、1912年(大正元年)タリベル神父(パリ外国宣教会)によって創設され今年100周年を迎えた。聖堂は旧東北電灯会社から約100年前に買い受けたもの。信徒数約180人(名簿上)、普段の主日ミサには約60人前後。子どもたちも多く、元気で、家庭的な教会。10月8日(月)・体育の日平賀徹夫司教はじめ福島県内の教会からの参加者も含め160余名が参加し、祝賀行事が行われた。

10月8日の朝は快晴。参加者は160人を超え、司教様はじめ司祭9名の豪華版になりました。準備段階では、玄関の混雑を解消するため、土足入場に。聖堂には130名の席を置き、中庭にテントを二張設置し30名分の席を用意しました。聖堂の窓を2か所外し聖堂と

の一体感を作り、モニター、スピーカーを設置し立派なサブ聖堂になりました。午前10時、司教様の声が、聖堂とテント聖堂に響き渡りました。聖歌の声、聖書朗読がすべて新鮮で、共同祈願も自分たちで作成した新しい200年に向けた第一歩にふさわしい内容でした。平賀司教様の説教で、10月11日

より信年(明治45年)に着任しました。仰年が始まることを告げられ、個々に信仰を見直し、イエス様の心をしつかり受け取り、それを他の人に伝えることで日々を過ごすよう励まされました。聖体拝領は司教様から一人一人直接頂くお恵みをいただきました。ミサ後の祝賀会には、福島県内の各教会からも52名の参加がありました。祝辞は100年前に教会を設立して下さったタリベル神父様の所属されている、パリ外国宣教会の管区長シエガレ・オリビエ神父様から始まりました。タリベル神父様は、鶴岡教会、山形教会を経て白河教会に1912



創立100周年記念祝賀会



年(明治45年)に着任しました。次々来賓の神父様修道会の皆様を紹介後、大竹さんのヴァイオリン演奏で和やかに会食いたしました。出し物の圧巻は日曜学校の手話を交えてのコーラスです。写真。アンコールにも応じ会場の方の盛大な拍手をいただきました。この若いエネルギーがある限り当教会は安泰です。また今日の為に村田佳代



「栄光」と言う題名の絵画「写真有るし場」をこ寄付していただきましたのでご披露いたしました。さあよいよ白河教会は、一時中断していた信徒館建設に向かつてスタートします。(広報部長 川井田 元)

今年10月20日、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(以下CND)は、日本宣教80周年を迎えます。今から80年前、1932(昭和7)年頃は、教皇ピオ11世が、「アジアに福音を述べよ」としきりに呼びかけておられた時代

CND修道会日本宣教80周年



です。多くの修道会、宣教会がこれに応えました。CND総顧問会も、いくつかの候補地の中から、祈りのうちに熟考し、日本を選びました。カナダのドミニコ会管区長E・ラングレ師が、福島を指定されたよつです。先発の5人のカナダ人写真が指名されました。一行は、モントリオールから鉄道で5日かけて北米大陸を横断し、バンクーバーから船で太平洋を渡り、ついに出発の日から18日目に、福島に到着しました。



最初の修道院(震災被害等により、解体)

シスターズは新町の仮住まいで、さつそく新しい生活を始めました。記録を見ると、大笑いするような珍事件の続発で(紹介するスペースがないのが残念)、日本語の話をせない5人の彼女たちと、昭和初期の福島の信者さんたちとの縁がスタートしました。

最初の5人のCND会員が福島の地を踏んだ。その同じ日、同じ時間に、平賀司教様により、感謝のミサをささげていただきました。仙台教区と、地域の皆様のお導きと、お支えに包まれて、今後もつつましく、元気に歩んで行けることを願っております。

の応援の会員も次々と到着し、日本人の入会希望者も出始めました。1935(昭和10)年、現在の花園町に土地を買い、修道院を建て、診療所と幼稚園を開きました。…そこから揚々と拡張するはずであった神の国は、第2次世界大戦という思いがけない出来事によって、修道院建物の接収、シスターズへの立ち退き命令と会津若松での軟禁、そして1945(昭和20)年の福島帰還と活動の再開という数奇な道をたどりました。この期間に、病死したり、カナダに送還されたりというシスターもいましたが、数名のカナダ人と、新たに入会した日本人シスターズが果敢に福音宣教を始めました。これが、今日の桜の聖母学院の始まりです。

福島修道院 Sr.笠原 節子

絆のローソク・ワッシャー



青森藤幼稚園 12・4・27
全ての被災した方のためにお祈りします。
「今日 そして 明日」
一日一日を大切に
過ごしていけますように。



青森明の星中・高等学校 12・4・25
私たちは祈り続けます。私たちと同じ
中学生や高校生の方々が、
自分の夢や希望に向かう力を取り戻
すことができますように。
大津波や地震を乗り越え、人々が復興
を成し遂げることができますように。
福島原発の事故で住むところや仕
事を失った人々が、明日への希望を見
出すことができますように。
主よ、私たちの祈りを聞き入れてくだ
さい。



浪打カトリック幼稚園 12・4・23
マリア様、今も悲しみと苦しみの中
にいらっしゃる方々を心にとめ、天
のお父様にお取り次ぎください。
ローソクの光のように、小さな私た
ちも、まわりの方々を、てらす光に
なることができますように。



松丘教会 12・4・28
未曾有の災害に見舞われた
東日本大震災の被災地を持つ仙台
教区の共同体の一員として、私たち
は、今日の祈りを通して
被災者、特に老人、障害者、病人の
方々との絆を、ますます固いもの
とし、悩み苦しみの中にも、一歩一歩
聖霊の光の中へ、復興を信じて歩み
出すことが出来ますように、心を寄せ
て祈ります。



聖母被昇天修道会 青森修道院 12・4・25
イエスはいつも共にいてくださる
から 信じて歩めば希望の灯が...
主において毎日一つの心でロザリ
オの祈りを擲げ続けます。



青森明の星短期大学付属幼稚園 12・4・26
神様、今日もお友だちや先生と皆一緒
にお祈りをします。
大震災でいろいろなことを思いながら
生活している人たちが幸せになります
ように、神様のあたたかい光で照らし
てください。



浪打教会 12・4・29
神は決して見捨てることはない。
命をかけて 命を招いて下さった方
を 信じて歩みます。
私たちは 主においてひとつ
被災された方と共に復興の道を
歩ませてください。



青森明の星短期大学 12・4・25
共に歩む...このことばの意味がわか
りました。そして、こんなに多くの仲
間がいいたことがわかりました。
神さま、被災された方にあなたの愛の
力強さを示してください。
支援を待っている方に、私たちが寄り
添うことが出来るように導いて下さ
い。
私たちも支援の輪に加わり、被災され
た方々を支える力になれるように。
特に大学生のボランティアに目を注
ぎ、私たちができることは何かを教え
てください。



殉教者聖ガブリエルの方サコ修道会 青森聖母園マリア院 12・4・27
命の造り主である主よ、私たちは、困難の
中、暗闇の中でこそあなたに希望し願い求
めます。あなたはいつくしみに満ちた方、子
どもたちが生きることを喜ばれる方です。
今困難にある人たちが、私たちの兄弟である
ことを深く自覚させてください。そして、私
たち自身の痛みとして感じ、祈りの中で共
にすることが出来るようにさせてください。



聖心幼稚園児の絵





藤聖母園 弘前大清水ホーム

12・5・16

私たちができることは何より、大震災によって生命を失った方、かけがえのないご家族を失った方、たくさんの大切なものを失った方々がいらっしゃることを、いつまでも忘れず、今必要とされること全てに微力ながら協力できることを願っております。一日も早い復興と被害に遭われた皆様の心が少しずつでも癒されますように祈っております。



聖母被昇天修道会 弘前修道院

12・5・10

東日本大震災、津波、原発事故から一年余り、被災地からは《忘れないで!》の叫びが、強く心に響いてきます。それに呼応して、日々、朝の祈りの中で新たな意向を持ってお祈りしています。様々な状況の中で、様々な立場の方々が、復興、再生に向けて立ち上がろうとしておられます。



殉教者聖ゲルギオのフランシスコ修道会

藤の園マリア院 12・4・30

主を呼ぶ人すべてに近くいましまことをもって呼ぶすべてに近くいまし主を畏れる人々の望みをかなえ叫びを聞いて救ってくださいます。

(詩編 145)

信頼を持って祈る私たちの願いを聞き入れてください。



弘前カトリック幼稚園

12・5・16

弘前教会で、ガブリ神父様と全園児が集い、絆のローソクを囲んで、お祈りました。今もなお、苦しみのうちにおられる方々が、一日も早く安心して過ごせる日が訪れますように、これからも祈り続けます。



オタワ愛徳修道女会 弘前修道院

12・5・12

わたしたちは主においてひとつ イスはいつでもともいっから イスを信じ、「希望の灯」を見つめて 一緒に歩んでまいりましょう!



藤聖母園 藤保育園 12・5・1

“絆のローソク”の火が、希望の光となりますように。

被災された方々と、目に見えない大切な心と心でつながっていきますように。

離れていても、いつも一緒です!

離れていても、いつも祈っています!



聖心幼稚園

12・5・17



わたしたちかみさまとつなが(っ)ている



五所川原教会

12・5・13

一人ひとりが心を寄せ合い、絆を深め合うことによって、希望の光を見出していくことが出来ますように。



弘前教会

12・5・6

被災地の皆様方と共に、わたしたちの教会共同体との絆を大切に新しい創造に向かって歩みを共にすることが出来ますように。

聖テレジア幼稚園 12・5・14



東日本大震災で被災された全ての方、家族の皆さんに祈りを捧げました。

ローソクの灯に希望とつながりを感じ、もう一度「絆」を考える機会となりました。

子どもたちの元気で明るい声が多くの方々に届き、みんなが笑顔となり、前へ進む力となることを信じ、これからも私たちは神様に祈り続けます。



八戸塩町教会 12・6・3

震災で亡くなられた方々が神様のもとで安らかに憩うことができますように。また、大切な人を亡くし今なお困難の中にある方々、福島第1原発の放射能被害で避難されている方々が、一日も早く安心して暮らせる日が来ますように...



弘前明の星幼稚園 12・5・21

震災で大変な思いをされた方々が、悲しい気持ち乗り越えて笑顔で元気に過ごせますように。神様、どうぞあたかも光をそいでください。明の星のマリアさまが、いつも皆さんのそばにいて守ってくださいますように。みんなで心を合わせてお祈りしました。



弘前大清水学園・大清水希望の家・養育支援センターおおしみず

12・5・18

・震災で亡くなられた方々、また、その苦しみの中で命を落とされた方々が、天国で安らかにいこわれますように...
・大切な人を亡くされた方々、住まいや仕事を亡くし、今なお苦しみのうちにある方々の上に神様の慰めがありますように...
・この震災のために様々な支援活動をしている皆さんの上に神様からのたくさんのお恵みがありますように...



聖ウルスラ修道会 塩町修道院

12・6・4

震災から1年3か月、祈りの中で皆様と共に歩く思いと、小さな働きを心がけて参りましたが、今ローソクを前にして「互いに愛しあいなさい」という主のみ言葉を改めて思いました。厳しい日々の生活の中で、復興への歩みを続けられる皆様と共に、私どもは、世界の方々と心を合わせてお祈りを続けていきたいと思ひます。



鮫町教会 12・5・27

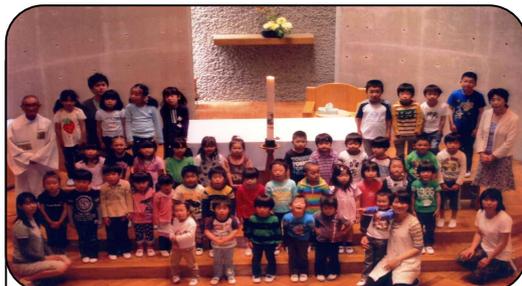
今日はマリア祭のため八戸塩町教会の方々にも参加していただきました。このローソクの灯が、豊かに燃え、聖霊の光に照らされ、被災地の方々にもその光が届きますように。



藤聖母園 弘前大清水保育園

12・5・18

東日本大震災で、亡くなられた方、大切な家族、友人、仲間を亡くされた方々、住み慣れた家が流されたり、自分の町に帰ることが許されず避難生活をしている方々のために、1日も早い復興と、希望を持って生きることができるようお願いを込めて、職員・園児たちとお祈りをささげました。



イメルダ幼稚園 12・6・5

教会聖堂にて“ローソクのつどい”を行いました。神父様と共に、お祈りをお捧しました。
~こどもたちから出たおいのり~
*皆が元気になるように
*なくなった人たちが神様のいる天国にいきますように
*大切な人たちが神様から良いプレゼントがもらえますように
*もう地震がきませんように
子どもたちの手は小さく、大きなお祈りは出来ませんが、お祈りすることにより、苦しみのうちにある方々の心にローソクのような明りを灯すことが出来ますように。



ファチマ幼稚園 12・5・30

[共同祈願]
教師：東日本大震災で亡くなられた方々が、天国で最も幸せな生活を送ることが出来ますように。
子ども：おうちがながされてしまったひとや、はたらくところがなくなったひとを、たすけてください。
子ども：ほうしゃのうがいっぱいで、おうちにもどれないひとや、はたけしごとができないひとをたすけてください。
子ども：がそりんや、おみずや、でんきのたいせつさがよくわかりました。みんなでちきゅうにやさしいせいがかつ出来ますように。
教師：東日本大震災でお心が寂しくなった方々が、一日も早く元気になりますように。



黒石教会 12・5・20

震災で亡くなられた方々、また、今それによって苦しんでいる人たち、神様のおんあわれみを必要としている人のために祈ります。
これからも絆を深め、ローソクの光の下で皆様が一日も早く平和な毎日を迎えることが出来ますように。





志家教会 12・7・8

東日本大震災の昨年7月より1年をかけ、仙台司教区の全教会、修道会、教育・福祉施設などをまわり、52番目(53教会中)の当教会に到着した「絆のローソク」を目の前にし感動しております。教区内の皆様のお祈りでつないでこられた「ローソク」のもとで、私たちも共に祈る恵みに感謝いたします。「主において、私たちはひとつ」を心に留め、これからも共同体として祈りをささげて参りたいと思います。



盛岡上堂教会 12・7・1

あそこへ行けば楽しいと言われるような教会でありたいと願っています。新しい人が来てくれることを祈りながら。



聖ウルスラ修道会 田面木修道院 12・6・7

神は愛
東日本大震災で亡くなった方々のため、被災地で生きるすべての人々のために、心を共にしてお祈りを続けます。



ドミニコ会ロザリオの聖母修道院 12・7・5

被災者、犠牲者、様々なかたちで支援されている方々を主のみ前に携えて祈っております。日本を再創造する小さな、しかし力強い希望の光を見つめ、それが燃え上がる炎に成長することを願いながら、火舎(ほや)の役目を果たして行きたいと念じております。



八戸聖ウルスラ学院 幼稚園・中学・高等学校 12・6・8
学院のマリア祭の中で、「絆のローソク」が引き継がれました。

マリア様
東日本大震災からやっと1年たちました。ローソクを見てあの日のことを思い出し祈ります。復興が進まない地域があり、地震により生活が変わり、悩みながらも頑張っている人がたくさんいます。少しでも笑顔と平和な生活に戻る希望が見えますように。開発途上にある多くの国が、自分たちの困難や貧しさにもかかわらず、物資や義援金をくださったことに感謝します。人々の優しい心にふさわしい豊かな国に成長できますように。

(中3代表の祈り)



シャルトル聖パウロ修道女会 盛岡修道院 12・7・11

「仙台教区 常に新しい創造」をタスキに絆のローソクをバトンに一年間仙台教区内を結んだリレーがゴールに近づいています。私たちは岩手県の内陸、盛岡の地でこれからも教区の一致と東日本大震災の被害からの復興を願い祈り続けます。



盛岡白百合学園小学校 12・7・6

絆のローソクに灯を灯し、児童職員が心をひとつにして祈りました。東日本大震災で亡くなった方、まだ苦しみの中にいる方、復興のためにがんばっている方たちに、この祈りが届きますように。そして、絆のローソクを囲んだ祈りのリレーが、この先も力強く広がっていくことを信じています。これからも、被災地で頑張る方たちのために子どもたちと共に祈り続けます。



四ツ家教会 12・7・15

仙台教区年にあたって教区をくまなく廻ってきたこのローソクリレーも四ツ家教会で終わりになりました。昨年の震災では教区内も大きな被害がありましたが、全国のボランティアに助けられながら立ち上がりつつあります。まだまだ多くの援助が必要です。苦しむ人、悲しむ人々に寄り添い希望の灯を灯すことが出来ますように。



久慈教会 12・6・9

東日本大震災の死者、行方不明者の安息を祈ります。一日も早い復興を祈願し、身近な人々を支え、愛し合おう。

仙台教区「絆のローソクリレー」の写真とメッセージを201号(11年9月4日)から掲載してきましたが、今回で終了です。今年7月16日の岩手県大会で、絆のローソクが、司教様に返納され、リレーが終了しました。これからも、被災者の方々に寄り添い続け、絆を強めていくことが出来ますようにと祈りを込めて...



南相馬復興のシンボルに さゆり幼稚園 室内遊び場落成式

福島県南相馬市原町教会に隣接しているさゆり幼稚園で、10月5日「室内遊び場落成式」が行われた。南相馬市長 桜井勝延氏、建設関係者、保護者会会長、顧問、カリスジャパン援助部会秘書 成井大介神父など、少数の人を招いての小さな落成式。

さゆり幼稚園は、福島第一原発事故以来すっかり変わってしまった、これまで園児が85人いたが、7ヶ月間園児を迎え入れることができなかった。しかし、除染作業を



「創設から60年たっているこの幼稚園が、以前と同じように地域の子どもたちに、砂場付室内遊び場がほしい、と思いました。しかし、経済的な力がありません。奇跡を求めました。今、この夢が実現したのは、カリスジャパンの力が

したり、やれる努力に全力を尽くし、やっと、幼稚園再開にこぎつけ、園児も0人から今では21人に増えた。5人いた先生も3人になりました。この苦難の道を共に歩いてきた。

あつたからです。改めて心から感謝いたします」と園長のラトゥール神父。

続いて、保護者会会長が「自分の子どもも外で遊ばせることができないつらさを味わいましたので今日は本当にうれい」と挨拶。工事経過は、教会、幼稚園を施行し、「自身も卒園生という庄司建設副社長さんが経過報告。園児が減少して、空いた3部屋のうち2部屋を砂場に、1部屋を板の間の遊び場に、各部屋のはすかいをジャングルジムのように、園児が遊べるように工夫した」と説明。その後、感謝状がカリスジャパンと庄司建設に手渡された。

来賓祝辞で、顧問の渡辺恭伸氏は、3・11以降の園長と先生方の苦勞について話し、この「砂場付室内遊び場」を南相馬市復興のシンボルとしよつ、と明るい希望を表明され、主任の蒲田先生が感謝の言葉と、この砂場を地域の子どもたちにも開放すること、幼稚園が終わった後の時間をそれに当てることを発表し、落成式を終えた。

福島でテゼの祈りをしませんか

「テゼの祈り」は、フランスのテゼ村ではじまった歌のお祈りです。短く単純な歌を何度も繰り返すことで心を合わせ、祈りを深めていきます。声を出し、歌を繰り返すことで心が静まっていきます。忙しい毎日の中、忘れてしまった静寂を思い出します。歌が苦手な人でも大丈夫、難しいメロディーではありません。キリスト教信者でなくても大丈夫。心静かなひとときと一緒に過ごしてみませんか。

今回は、特別にフランスのテゼからブラザー・ギランが来福します。ぜひ足をお運びください。

ブラザー・ギラン < テゼ共同体の修道士 > 略歴

ベルギーに生まれる。テゼに入会後、医師として働くが、まもなくアジア・オセアニア担当になり、毎年各地で黙想会などを開催。東日本大震災後は、被災地での祈りの集いやボランティア活動に加わる。



[日 時] 12月3日(月)午後7時~午後8時30分ごろ
[場 所] 福島市松木町カトリック教会にて
[連絡先] 定方一悦(さだかたかずよし)
Sr. ラマーシュ 松木町教会 024-534-5947
[主 催] 松木町カトリック教会「いずみとぶどうの会」

その後、砂場に行き、来年卒園する3人の園児が砂場に入り遊び始めた。来賓もお客様も一緒に砂遊びを楽しみ、園児がいつまでも砂場から離れず遊んでいる姿を見て、砂遊びが幼児の発達上、必要不可欠なものという先生の言葉が思い出された。



み国が来ますように
私たちは、毎日「主の祈り」を唱えています。「...み国が来ますように、みこころが天におこなわれるとおり地にもおこなわれますように...」と。

これは、今、私たちが暮らしている現実の社会の中に、神のみこころが反映した「神の国」が実現するよりの祈りです。

しかし、現代社会は、神のみこころとはほど遠い多くの問題を抱えています。地球環境問題、経済格差、紛争、原発の問題等々。

そのような中で、第二バチカン公会議開幕50周年を迎え、「信仰年」は世の唯一の救主である主に対する誠実で新たな回心への招きですと教皇ベネディクト十六世は「信仰年」の開会を告げました。

21世紀の地球環境を守るためには、いかに限られた資源を共有しながら、その責任を担っていくのか。地球規模の責任が一人ひとりに委ねられているのではないのでしょうか。

(地球を大事にする会 岩井 誠)

ロザリオ作り、宣教のため祈る 第5回 こどもの祈りの集い

「世界の福音宣教のために共にロザリオを祈りましょう」のテーマのもと、10月6日、仙塩地区教会学校主催の第5回「こどもの祈りの集い」が、北仙台教会で開かれた。

10月は「ロザリオの月」、全世界で「世界宣教」のために祈るよう、教皇様から招かれている。まず、仙台市内の修道会、宣教会が自分たちの会がどこで宣教しているかについてパネルを見せながら話し、その後、「福音宣教」についてラトゥール神父(北仙台教会)の話聞いた。子どもたちにはわかりやすく、聖ドミニコの例を引きながら「自分の心にある福音の喜びを伝える」ことを話



今回、特筆すべき出来事は、メキシコから司教様と神父様が参加してくださり、最後には、荘厳に祝福してくださり、子どもたちは大喜び。この集いは、各教会を知るためにも、場所を持ち回り、昨年からの3回の予定で続けられているもので、参加した子ども、保護者の方々から、「信仰を生活に密着したものとても役に立つ」と言

フィリピンで体験学習・医療ボランティア 八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校

今年の夏も、7月31日から8月9日の10日間にわたり、フィリピン共和国ダバオオリエンタル州のマチ市で体験学習および医療ボランティアを実施しました。このプログラムは、2007年から始まり今年で6年目になります。同じアジアの仲間であるフィリピンの文化を学び、友達になり、貧しい国の一つであるフィリピンの子どもたちに高校生として何ができるかを学び、行動する事を目的としています。もちろん、英語の学習も兼ねています。今年も6名の生徒が参加し、引率の2名の先生方と共に、ホームステイをしながら、さまざまな活動を体験してきました。



マチ市にあるIHM A(無原罪聖母宣教会女会経営)の生徒の家にホームステイしながら、IHM Aの授業に参加したり、生徒たちと

の様々な交流を通して、フィリピンの文化を学びました。また、マチ郊外・近郊の山村マラヤグとその近郊のラグカワンの三カ所での Outreach(ボランティア活動)。模造紙大の手作り紙芝居(今年も、浦島太郎「写真」の披露)おやつや配食、日本から持参した約600本の歯ブラシとタオルの配布などの活動を通して、現地の子どもたちが何を必要としているかを学び、帰国後どのような活動ができるかを学んで来ました。持参した歯ブラシやタオルは、全生徒・近くの長者中一年生・国際ソロプチミスト八戸等の協力で集められたものです。

もう一つの柱は、現地の児童養護施設 House of Joy との交流です。カトリック信者である烏山さんご夫婦によって開設された養護施設で、日々の衣食住に苦しむ子

この度も快く会場を提供し準備してくださった弘前教会の皆様から感謝いたします。(JCM A 仙台支部溝口由美子)

7月21日弘前いわき荘を会場として、JCM A・JCM A 仙台支部第三回交流会が行われた。昨年の大震災のため延期となっていたが、この度再度弘前で集うことができた。青森から6名、岩手から3名、宮城からは11名、総勢20名(うちJCM A 13名、JCM A 2名、司祭2名)が参加した。互いの無事を喜ぶとともに、それぞれの体験と思いを分かち合う豊かな時間を持った。翌7月22日はカトリック弘前教会で、地元の方々と主日のミサにあずかった後、山浦



ども(両親、または父親の死去や幼児虐待等)を保護し、衣食住および学習の機会を与え、健康などの成長を援助する事を目的とし、現在30数名の子どもたちがいます。日本からは年間200名を超える青年たちがボランティア等で訪れており、長崎の教会がバックアップしています。この施設での子どもたちとの交流も生徒たちにとっては大きな体験となっています。生徒会では、毎年この施設にサッカーボールを贈っています。

参加した生徒たちは、帰国後自らの体験をクラスメートや周囲の人々に積極的に伝えるなど、今後どのような活動をしていけば、自分たちの経験がより良いものになるかを考えながら行動をしており、八戸聖ウルスラ学院の建学の精神を肌で感じ、体験できる貴重な行事として、今後も続けて行くことにしています。(教頭 里村 智彦)

＊仙台教区生涯養成講座＊
第2バチカン公会議を学ぶ
講師 平賀司教・佐々木博神父
13時～14時20分

私の信仰とは
講師 横島健一 神父
14時30分～15時50分
10月～2013年9月まで
毎月第3土曜日(元寺小路教会第1回目は10月13日)に行われましたが、西講座とも若干の空きがあります。受講ご希望の方は教区事務所(1)に連絡下さい。
TEL: 022 222 7371

新刊案内



クリスマス絵本
今回は、いつもと違って、カトリック各出版社からクリスマスに向けて出されている各出版社からの絵本を選んで紹介します。

『さいごのクリスマスプレゼント』
発行 サンパウロ/定価 800円+税
クリスマス最高のプレゼントは神様からこの世界に贈られたイエスマ。厚いボール紙の温かい色調で描かれた小形絵本。

『トナカイさんの おてっだい』
発行 ドン・ボスコ社/定価800円+税
本の形がトナカイの型になっていて、色もきれいなかわいい絵本です。お手伝いの大切さを教えます。

『クリスマスのおたのしみ』
発行 ドン・ボスコ社/定価940円+税
世界で歌われている「きよしこの夜」の誕生のお話

『せいしよから10のおはなし』
発行 女子パウロ会/定価1300円+税
「ちいさなてんしたちへ」のシリーズ。アダムとエバ、ノア、アブラハム、モーセ、ダニエル、という旧約の話がつづき、イエスの誕生、イエスの宣教、奇跡、エルサレム入城、復活のお話が収められています。読み聞かせにぴったりの絵本です。

『てんしとこひび』
発行 女子パウロ会/定価1200円+税
少年ベンの子羊が逃げ出し、その夜ベンと子羊は天使の助けによってイエス様のごころで出会ったことがありました。